



「姿勢と動作」

——ADL における扱いと手順——

斎藤 宏・松村 秩・矢谷令子 著

著者の3氏は御紹介するまでもないと思うが、東京都神経科学総合研究所の医師で東京病院附属リハビリテーション学院で長年運動学を教えて下さっている斎藤宏先生と養育院附属病院のPT科長松村氏及び同上のリハビリテーション学院OT科長の矢谷氏である。発端は序に砂原先生も書いておられるように看護婦を対象としたものであったようだが、出来上がった内容は医師やPT, OTにも十分応えるものとなり、写真や絵を多くとり入れて患者の家族にも役に立つものになった。

第I章は「姿勢と動作」についての基礎知識で、姿勢に関して解剖・生理・運動学の見地から解説されている。第II章は「基本の姿勢」、第III章は「体位変換と移動動作」でこの第III章にも最もページ数をさいており、体位変換をする際の重心の移動、それに伴う介助および指導の方法がわかり易く図示されている。第IV章は「日

常生活動作」と称して必要最少限のことがコンパクトにまとめられているが、特に読んでいただきたいのは第5節「ADL 指導における医療関係職員の役割」のところでたったの2頁であるが、重なり合うリハビリテーション医療のチームメンバーが、いかにチームワークを組んだらよいかを述べ、特にPTとOTとナースの業務分担を表にし、例をあげて説明してあるのは他の本にみられないところであろう。

リハビリテーション医療におけるベテランの3氏が、がっちりチームを組んで書かれた本であるだけに、学生のみならず実践にたずさわるリハビリテーション医療関係者の一読に価する本であると信ずる。

(B5, 224 頁, メヂカルフレンド社, ¥ 2200, 1977)

(国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院 作業療法士

小川恵子)